

学校だより NO. 444
令和3年5月6日



〈横浜の教育がめざす人づくり〉

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

〈学校教育目標〉

夢や希望をもち、自らの生き方を追求する姿勢をはぐくみ、互いの良さを認め合いながら、ともに社会の創造に貢献しようとする態度を養います。

- ・知 生きて働く知
- ・徳 豊かな心
- ・体 健やかな体
- ・公 公共心と社会参画
- ・開 未来を拓く志

横浜市立品濃小学校 電話 824-0651 FAX 826-2183
URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinano/>

心を磨く

校長 坂井 暢

令和3年度が始まって、約1ヶ月。1年生も学校に大分慣れてきたようだ。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は再び大きな波が来ようとしている。まだまだワクチンが行き渡るまで時間がかかりそうで、今年度も、感染状況を見ながらの難しい判断を求められる場面が続くようだ。

今年度、新たに全校で取り組もうと考えていることが一つある。それは、「ペア学年無言清掃」だ。この掃除は、箒を使わず、縦拭きでゴミを集め、横拭きで磨く。コロナ禍ということもあり無言で行うことは感染予防にとともに考えている。また、無言清掃を通して、①常に次は何をするのかを考えながら行動する（想像力）②他の人の動きを見て、自分の動きを決める（判断力）③自分から進んでどんどん動く（自主性）④隅々まできれいにすることで、自分の生活・学習の場を大切にしたい気持ちを養う⑤礼に始まり礼に終わる～協力し合うことの大切さと感謝の気持ち⑥面倒で大変なことに毎日取り組むことで、きちんと最後までやり遂げる力と気持ちを養う、等を目指している。清掃は、ほぼ毎日、年間を通して行われる。1日20分、年間約180日とすると、年間約60時間。40分授業の90コマに当たる計算になる。この時間をどう有効に子どもたちの成長に結びつけていくか、ということとはとても重要な課題だと考えている。

もともと「無言清掃」は、福井県の永平寺中学校が今から約40年前に始めた取り組みだ。それが福井県内の小・中学校に広がり、更には、長野県内の小中学校に、そして、テレビ放映をきっかけに全国に広がろうとしている。清掃開始前に全校で黙想し、心を整え、開始の合図で黙々と担当場所を磨き上げるように清掃を行う。そこには、「心を整え」「心を磨く」子どもたちの姿がある。

江戸時代の儒学者、佐藤一齋という人が書いた「言志四録」の中に次のような文章がある。

“胸次清快（きょうじせいはい）なれば、即ち人事百艱（ひゃっかん）もまた阻（そ）ならず”（胸の内がすがすがしくさわやかならば、世間で出逢うあらゆる困難をも乗り越えられる。）

「無言清掃」の極意は、まさにここにあるのかなと思う。

「清掃時間はほとんど顧みられる事の無かった、学校生活の盲腸のようなもの」という指摘や、「小学校の高学年から掃除嫌いが進む」「先生方の中には、掃除の指導は苦手という人もいる」という現実もあるようだ。しかしながら、本校では高学年の児童はしっかりと清掃に取り組んでおり、こうした姿勢を兄弟学年で清掃することにより下学年に伝えていきたいという思い、また、始まりと終わりの「黙想」と「無言清掃」により、自分と向き合い、自己を見つめ直し、自ら考えて行動する力を養ってくれるものという思いから、この取り組みを始めたいと思う。

自らが生活し、学習している場、学校の校舎・校庭に礼と感謝の気持ちが持てるようになれば、それは、きっと、学校のみにとどまらず、家庭・地域へと広がっていくものだと考えている。自らの環境を良くし、自らの心を磨いていく。そうした習慣が、この、たった20分の掃除の時間を通して身に付いてくれれば、と願ってやまない。

4月から、2～6年生が先行して掃除の仕方を身につけ、ペア学年との試行の時間を経て、連休明けから本格実施を行う予定である。1年生も連休明けから6年生と合流する予定である。一朝一夕に結果や成果が出る性質のものではないが、これから、品濃小学校の伝統の一つとなるよう根気強く取り組んでいければと考えている。